

くりのみ広場

くりのみ広場 令和7年新年号（No.67）

発行・編集：社会福祉法人四幸舎和会 大阪府豊能郡能勢町下田尻20番地 TEL 072-735-2212 FAX 072-735-2213

発行責任者：大崎年史

新年号のキラキラさん

毎号 元気に輝く利用者をキラキラさんとして紹介します！

新年号は かたやまの赤いやねのキラキラさん です。



かたやまの赤いやねが

だいすきです

index

理事長より	年頭所感	P2
この人に聞く	能勢町社会福祉協議会事務局長より	P3
事業所めぐり	各事業所のクリスマスの様子	P4～5
職員コラム	かたやまの赤いやねのスタッフのコラムです	P6～7
寄附寄贈の紹介・くりのみ園のメニュー紹介・ひとこと		P8

【年頭所感】

くりのみ園開所から四半世紀の時が流れました！



社会福祉法人四幸舎和会

理事長 大崎 年史

新年、明けましておめでとうございます。新しい門出にあたり、皆さまに年頭のご挨拶を申し上げます。

当法人が大阪府より設立認可を受けたのが平成 11 年（1999 年）1 月 12 日でした。法人運営の中核である“くりのみ園”は、翌年（平成 12 年）4 月に開設され、実に四半世紀という時が流れました。この間、多くの利用者及びスタッフの入れ替わりがありましたが、皆さまのご理解、ご支援で事業継続できていることに改めて感謝申し上げます。

昨年 11 月 28 日に大阪国際交流センターにおいて、「令和 6 年度大阪府社会福祉大会」が開催されました。この大会では、永年にわたり社会福祉の向上に貢献されている社会福祉事業従事者やボランティア（個人、団体）の方々が表彰されています。各種表彰の中で“優良施設表彰”があり、毎年、府内の社会福祉施設より 10 施設が選ばれています。今大会では、そのうちの一施設がくりのみ園でした。受賞理由は明らかにされていませんが、ここ数年、積極的に生活困窮者への相談実績をあげるなど、地域貢献・社会貢献を行ってきたことが評価されたと感じています。但し、くりのみ園だけが評価されたのではなく、他の事業所も併せた“オールくりのみ”で表彰されたと思っています。これを励みに、法人運営に取り組んで参ります。

さて、知的入所の施設長会議で話題になるのは、「スタッフ足りてる？」、「この間一人辞めたけど、なかなか人の手当てができない」等々、新卒採用及び中途採用とも人材確保に苦慮している話が尽きません。介護や身障分野では、外国人採用が既に定着していますが、知的の分野でも外国人採用に踏み出している事業所が増えてきています。コミュニケーション等の課題がありますが情報を集めて検討していきたいと思います。

なお、当法人の新卒採用ですが、昨年 11 月 30 日の内定式に 3 名（女性 1 名、男性 2 名）出席してくれました。4 月 1 日に辞令交付できることを楽しみにしています。余談ですが、昨年 12 月に「次世代の福祉業界を担う人材確保と社会福祉法人と学生のつながりづくり」をテーマにした研修を企画しました。その中で、25 年卒の学生インタビューから、『法人を選ぶ際に重視した点』では以下の 3 点が群を抜いていました。

1 位 関心のある事業内容である

2 位 給与や手当が充実している

3 位 職場・職員の雰囲気（参考：FACE to FUKUSHI 調べによる）

今年度から大阪人間科学大学とコラボして、法人内の事業所が催す行事等にフィールドワークの場として学生が参加する取り組みを始めています。当法人の事業が学生の進路にどう結び付いていくか大いに期待しています。



最後に干支にちなんだお話です。蛇は脱皮を繰り返しますので、巳年は「復活と再生」を意味していると言います。どんなに苦しい状況になってもいち早く立ち直ることができるポジティブな1年となるよう願っています。

この人に聞く

様々な形で当法人とご縁のある方に、ご意見やご提言をいただくコーナーです。
今回は、くりのみ園とは行事などでお世話になっている社会福祉法人 能勢町社会福祉協議会 事務局長の松下様より寄稿していただきました。

災害時の支援について(地域貢献委員会との連携)

社会福祉法人能勢町社会福祉協議会
事務局長 松下和之

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、地域貢献活動・地域福祉活動推進のため、能勢町社協(能勢町社会福祉協議会)に対し、温かいご支援とご協力を賜り、心からお礼を申し上げます。

さて、災害時の支援として、台風等による風水害や地震、津波などの災害が発生した場合、被災地では災害ボランティアによる支援活動が大きな力を発揮し、ボランティア活動が果たす大きな役割の一つとなっています。

社会福祉協議会では、普段からボランティアや住民活動の推進や支援を行っています。また、災害発生時には、災害ボランティアセンターを開設し、被災地の支援ニーズの把握・整理を行うとともに、支援活動を希望する個人や団体の受け入れ調整やマッチング活動を行っています。

能勢町社協といたしましても、災害発生時に能勢町と協議の上、災害ボランティアセンターを設置することとなっており、関係機関・団体で構成する「災害ボランティアセンター関係者ネットワーク会議」を開催し、災害時の効果的な連携・支援体制を構築することと、平時からの“顔の見える関係づくり”を行っているところです。

そのような中、今回は、町内の福祉施設で構成されている「能勢町社会福祉施設地域貢献委員会(会長:社会福祉法人四幸舎和会 大崎理事長)」との共催により、災害時に災害ボランティアセンターをスムーズに設置できるよう「災害ボランティアセンター立ち上げ訓練」を開催しました。今までも講義等の災害研修は開催してきましたが、実践的な立ち上げ訓練は初めてであったため、参加した社協職員も施設職員の方々も、今後に向けた役割・課題整理ができたことと思います。

今後についても、災害時の支援として、立ち上げ訓練等を定期的に行い、災害ボランティアセンター(災害VC)の効果的な協働運営をめざし、社会福祉施設の皆様方との連携強化をはじめとして、地域住民、関係機関・団体、ボランティアや行政などと連携し、地域福祉推進を図ってまいりますので、皆様方のより一層のご理解・ご支援を心よりお願い申し上げます。

クリスマス

事業所めぐり



職員コラム

『自分で決めることを支援する』

かたやまの赤いやね 支援員 大西 鈴香

新年あけましておめでとうございます。

ここ数年…特に昨年は、「意思決定支援」というワードを耳にすることが増えました。

日常的なこと（今日着る服や、食事内容の選択など）から、もう少し大きな決定のこと（個別支援計画の内容や、住みたい場所の選択など）まで、利用者の方たちは私たちと同じように、様々な選択ができる権利を持っています。

本来当たり前であるその権利を守るための意思決定支援ですが、「意思を読み取ることが難しい」などの理由から、ご本人の意思を推測しつつもスタッフが代わりに決めている場面は多いです。

私がこのことについて考える時によく思い出すのは、2～3年前のある利用者との会話です。普段は、こちらから好きな食べ物などの質問や、雑談をしようとしても、「なんでもいい」「わからない」と短く答えられることが多い方でした。

でもある時の送迎車内で突然、「一緒に休みの日どこかに行きませんか!？」とその利用者が仰いました。どこに行きたいかを聞くと、「温泉!」という答えが返ってきました。その時の私は、「このような発言もされる方なんだな」という驚きはありましたが、特に深くは考えず、「そうなんですね～」とその会話を終わらせてしまいました。

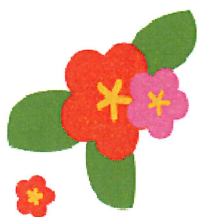
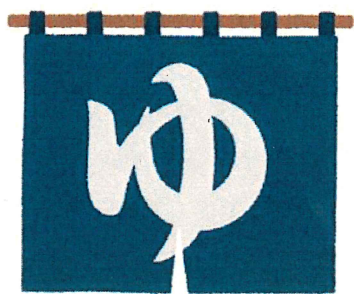
「もったいなかったなー」…と思います。

普段自分の気持ちを表すことが少なければ少ないほど、どんなに些細な発言や動きも、ご本人の貴重な情報、意思のヒントになるはずですが、でもそれは、スタッフである私がそのことを意識できていなければ、活かされない情報になってしまいます。利用者はその時の思いが叶えられなかっただけでなく、「言っても無駄だな」という気持ちになり、さらに自分の意思を伝えようとする場面は減ってしまうかもしれません。意思を伝えることが苦手な方はいますが、意思を持たない方は絶対にいません。そのことを前提にして、普段からいかに利用者の言動に対してアンテナを張っておけるかが大切だと思います。

また、難しいなと思っているのが、ご本人の意思と私個人の価値観が違った場合です。去年受講した様々な研修等でも、他者の権利や本人の安全を侵害するようなものを除き、ご本人の意思を尊重することが基本だと何度も学びました。ただ利用者の中には、様々な危険や総合的な判断が難しい場合もあるので、「ご本人の希望だから」とすべてを叶えることが支援というわけでもありません。でもだからといって、私個人のバイアスや思い込み（「普通はこうしない」や「これは不可能だろう」など）で、深く悩まずにスルーしてしまうことが一番良くないことだとも思います。ご家族の方や、周りのスタッフとも話し合いながら、もっと悩んで向き合うことがまずは大切なのかなと思います。

ちなみに送迎車内で「温泉!」と仰った利用者は、最近また「温泉に行きたい」と伝えてくださいました。去年導入したモチベーションアップのためのシステム(日々行う作業が終わるとカードがもらえて、全部貯まるといろいろなところへ外出ができるもの)を活用しつつ、今度こそは温泉の機会を作りたいなと思っています。

温泉に行くことができれば、この利用者はおそらく喜ばれると思います。でもそこで終わりではなく、「次はあれもしてみたい」「スタッフに伝えてみようかな」と感じられ、色々な楽しみが広がるきっかけとなればもっといいなと思います。



スタッフよりひとこと!

かたやまの赤いやねの利用者は自分の意思を伝える手段が少なかったり苦手だったりする方が多くいらっしゃいます。大西さんが気付かれた通り、何気ない言葉のやり取りからどう叶えるまで道筋を立てるか、さらに自閉症の方にはわかりやすく伝えていくことについては事業所としてはもっとがんばらないといけないと思っています。こういった気づきのあるスタッフがいることがとても頼もしく思いますし、私も一緒に勉強させていただき、チーム一丸となって取り組んでいきたいです。

かたやまの赤いやね サービス管理責任者 黒川



🍊 寄附・寄贈のご紹介 🍊

井上 英 様	お米 30kg
三浦 嘉彦様	お米 30kg
家族会 様	クリスマスプレゼント代
Shikousya サポートクラブ様	356,000 円



令和6年12月末時点

🍊 くりのみ園のメニュー紹介 🍊

クリスマス メニュー



おせち料理



今年は、家族会から
いただいたクリスマスプ
レゼント代で、ケーキを
買いました。
ありがとうございました
くりのみ園



🍊 ひとこと 🍊

突然ですがみなさん、「あなたの趣味は何ですか」と言われたら、ぱっと答えられますか。

趣味と言わずとも、「休みの日は何をしていますか」「好きなことは何ですか」と聞かれたら……。私はこれらの質問がとても苦手です。

プライベートで新しい方と出会う機会は減ってきましたが、職場で研修などに行くと、たいていグループワークというのがあって、何人かのグループの中で無理やり趣味を作って話さなければならないときがあります。そんなとき嘘は言わないですが、正直に話すわけでもなく、いや、話せるわけでもなく、だいたい、もやっとしています。

新年になると、今年こそはぱっと言える趣味を作ろう！と目標を掲げています。已年ももちろん、この目標を掲げながら、いろんなことをしてみようと思います。みなさん今年は何をしてみようと思っていますか。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

ロジェはちづか サービス管理責任者 浅原 あゆみ
能勢くりのみホーム